

支倉常長フェロー報告書

提出日 2010年 9月 6日



申請者	氏名	建部 俊介
	所属・職	循環器病態学分野・大学院2年
出張期間	2010年 8月 27日 ~ 9月 2日	
渡航先	スウェーデン・ストックホルム	
渡航目的	学会発表	
発表演題名あるいは 共同研究課題名	Optical Coherence Tomography as a Novel Differential Diagnostic Tool for Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension from Pulmonary Arterial Hypertension	
得られた成果など	<p>ストックホルムで開催されたヨーロッパ心臓病学会に参加し、演題を発表した。本学会は世界最大規模の心臓病学会であり、多数の参加者により盛況であった。</p> <p>私が発表した演題は、元来、網膜・冠動脈の観察に用いられている OCT (光干渉断層撮影法) を、慢性血栓塞栓性肺高血圧症及び肺動脈性肺高血圧症の鑑別診断に応用した新たな肺動脈画像診断法に関するものである。</p> <p>OCT は空間分解能が高く、従来の肺動脈造影・造影 CT では不可能であった 1 mm前後の肺細動脈壁の性状・血管内血栓の詳細な観察を可能とするもので、両疾患の鑑別に有用であることを世界で初めて明らかにした報告である。鑑別診断は治療方針の決定に必須であることから注目度は高く、実際の手技や安全性について多くの質問を受けた。また病理組織との対比、治療介入効果、予後予測への応用などについて有意義な討論を行った。</p> <p>また、各国の最先端の研究発表に触れることができ、多くの知見を得た。特に、専門である肺高血圧症や成人先天性心疾患においては、日本の大規模登録制度の必要性を感じた。一方、現在私が並行して行っている研究テーマである後毛細管性肺高血圧症に関する研究発表もあり、データ収集や解析法が大変参考となったが、同時に今後の研究の方向性について考える良い機会となった。</p> <p>海外の学会に参加する機会をいただいたことに、心から感謝します。</p>	
		 